

# 選書方針の構築と図書館利用促進プランの 開発に向けて

小林晴子

愛知医科大学医学情報センター（図書館）

## 1 背景と目的

愛知医科大学医学情報センター(図書館)(以下、当館)では、平成 20 年度テクニカルサービスグループの業務目標として「図書等の選定基準等を確立し、蔵書の適正化と活性化(有効利用)を図る」を設定した。

背景には、①外国雑誌の価格高騰や電子ジャーナルの整備による図書費の圧迫②選書方法と利用者側の需要とのズレ(学生用図書)③2007年から地域公開が施行され、より一層利用対象者を意識した選書やサービスが必要となった等が挙げられる。

今回の発表では、効果的な選書や利用促進プランを図ることを目的に、平成 19 年度から取り組んでいる大学および病院との連携の実績や計画を報告する。

## 2 平成 19 年度実施事項（平成 20 年度の準備として）

[学生用図書]

医学教育センターと連携して図書の選定を行い、特定分野の偏りの是正、講義とのリンクの強化を図った。

[地域公開用図書]

(1)病院の各種相談窓口と連携して資料選定を行い、窓口からの推薦資料の提出を受けた。

(2)病院と図書館との利用者の道筋について基盤を形成した。

## 3 平成 20 年度実施予定（平成 19 年度の試行を踏まえて）

[学生用図書]

(1)医学教育センターとの連携に加え、学生による選書（例えば、ブックハンティング）を実施する。また、教員と学生の視点の相違についての分析を行う。

(2)蔵書検索システム（OPAC）で提供する学生用図書に関連情報を付与し、学生用図書の整備とシステムを活用した情報提供をトータルで構築する。

(3)配架の工夫

[地域公開用図書]

(1)相談窓口との連携に加え、病院の診療科からの推薦資料の提出を依頼する。

(2)病院と図書館の利用者サービスのつながりをソフトおよびハード面から形成強化する。

(3)配架の工夫